

HEART NEWS

2020年 1月1日発行

Vol. 41

大阪市立総合医療センター循環器センター

<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>



旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

当院では、さらなるイノベーションを目指して、本年1月1日から電子カルテシステムの大幅な更新を行いました。電子カルテシステムの更新により、地域医療機関の先生方から依頼のより迅速な対応が可能になることが期待されます。

今回のハートニュースは、循環器内科からは、昨年から開始しました閉塞性肥大型心筋症のカテーテル治療（経皮的中隔心筋焼灼術 PTSMA）について、心臓血管外科からは、当院で行っている心臓手術や大動脈手術以外の全身の血管の様々な疾患の診断や治療についての報告です。

本年も、これまで同様地域医療機関との連携強化に努め、どのような心血管疾患に対しても最先端の循環器医療を提供できるように、なお一層努力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。循環器センターのHP (<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>) も是非ご覧ください。

大阪市立総合医療センター 循環器センター長
循環器内科部長

成子 隆彦

閉塞性肥大型心筋症と経皮的中心隔心筋焼灼術 (PTSMA) について

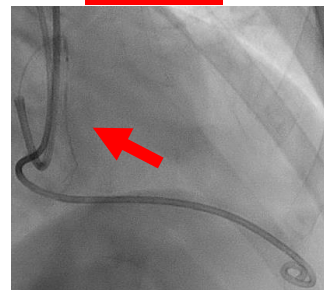
循環器内科 医長 仲川将志

肥大型心筋症のなかでも、一般に、左室内圧較差が30mmHg以上有する閉塞性肥大型心筋症では、その予後は不良とされています。β遮断薬やI a群抗不整脈薬、Ca拮抗薬といった薬物療法にもかかわらず、左室内圧較差が残存し、息切れなどの心不全症状をきたす症例も少なくなく、その場合には、非薬物治療を考慮します。ペースメーカー治療も有用な選択肢のひとつではありますが、近年のガイドラインでは中隔心筋縮小治療を優先する傾向にあります。

カテーテル治療である経皮的中心隔心筋焼灼術 (PTSMA) は1990年代にはじまり、手法が次第に確立されるとともに、その成績は向上するようになり、いまでは外科治療に並ぶ治療の第一選択として考えられるようになりました。侵襲が少なく、中高年齢層の患者や併存疾患の多い症例、開心術の既往のある症例などでは非常に良い適応と考えられています。PTSMAはおもに左室流出路狭窄の肥大型心筋症を対象とし、肥大心筋を灌流している冠動脈中隔枝にバルーンカテーテルを通して選択的に高濃度エタノールを注入する方法で、心筋に凝固壊死を起こすことで、心筋収縮が制限され、圧較差が改善します。施行時に選択的コントラストエコーを併用することで、治療の有効性や安全性が著しく向上しました (右図)。

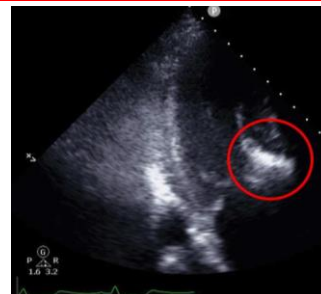
当院で、昨年約1年間に、7例の患者さんに対してPTSMAをおこないました。下図に示しますように、全例で、安静時ないし負荷時での左室-大動脈間圧較差は低下し、心拍出量(心係数)も増加がみられ、ほぼ全例でNYHA1度程度に心不全症状の改善がみられています。低侵襲であり、入院期間も短く、術後1週間以内での退院が可能というのも、特徴のひとつと考えられます。

PTSMA



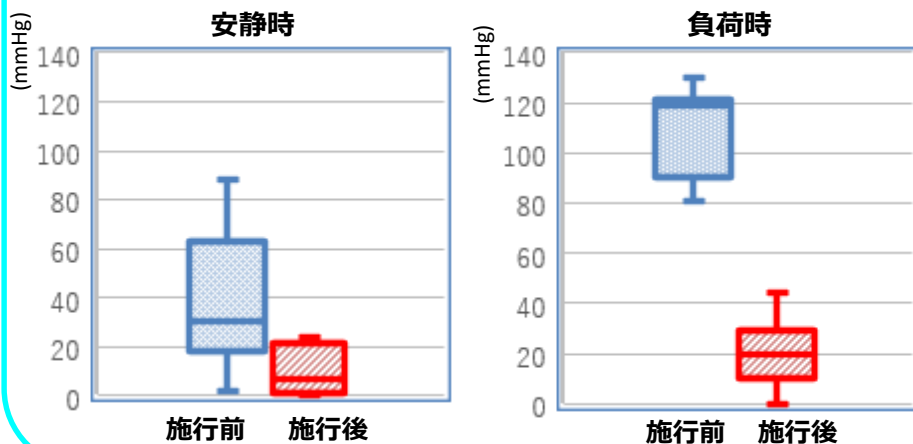
バルーンで冠動脈分枝を閉塞した後、心筋コントラストエコーで評価のうえでエタノール注入 (→)

術中の心筋コントラストエコー

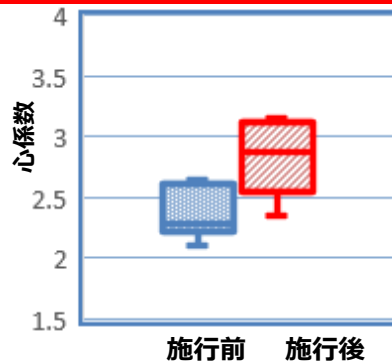


エタノール注入により標的領域が一樣に白く濃染 (丸印)

PTSMA前後の左室-大動脈間圧較差の推移



PTSMA前後の心係数の推移



循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	中達/占野 (ペースメーカー)	仲川	成子
午後	阿部	松村			成子
	占野(ペースメーカー)				林

地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本
					林(不整脈)
午後		齋藤(末梢動脈)	占野(不整脈)	仲川(肥大型心筋症)	松本(TAVI)

全身の血管を診る

心臓血管外科部長 村上 貴志

心臓血管外科では、心臓手術や大動脈手術の様な命に直結する大きな手術を行っていますが、その他の全身の血管の様々な疾患の診断・治療も行っております。今回は、罹患率も高いそれらの疾患について触れていきたいと思います。

リンパ浮腫



*悪性疾患の術後などは、当該診療科が担当となります

虚血性皮膚潰瘍・壊疽



静脈鬱滞性 皮膚炎・皮膚潰瘍

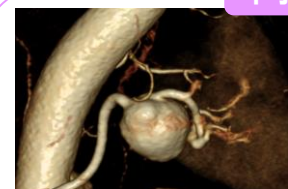


下肢静脈瘤

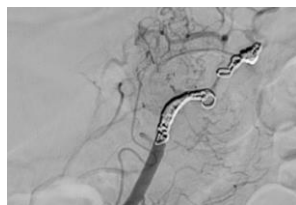


様々な血管内治療

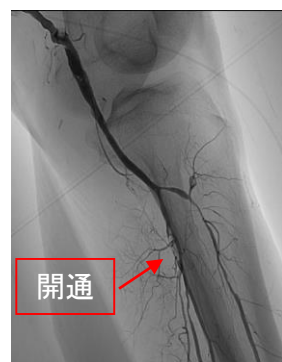
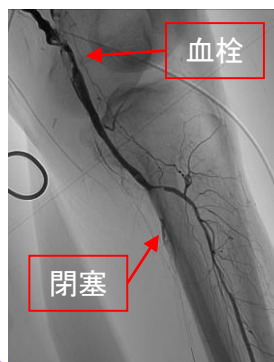
内蔵動脈瘤



脾動脈瘤に対する
コイル塞栓術



急性下肢虚血



心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山	村上	阪口	下肢静脈瘤外来	尾藤
午後	青山	村上	阪口	青山	尾藤

今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究のいずれもが欠けることのないように力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、教育プログラムの運営を行ったりしています。今回は、11月にロンドンで開催されたLondon Valveで加川医師と野村医師が（左上）、12月に岡山で開催された日本冠疾患学会学術集会で阿部医師（右上）と藤澤医師（左下）が、そして日本循環器学会近畿地方会で加島医師（右下）が発表した際に、それぞれ撮影した写真を掲載させていただきました。当センターでは、臨床や研究の成果を院外に発信して広い意味で医療に貢献することができるように平素から努力しております。しかし、院外で学んだことを持ち帰って患者さんや地域医療のお役に立つことが最大の目標です。今後ともご支援をお願い申し上げます。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

ハートライン（循環器センター直通電話）

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、
06-6929-1221（病院代表）から呼び出して下さい。